

ナポレオンと日本酒

世界の歴史上、一番多く出版された書籍は聖書だ。二番目はナポレオンにまつわる書籍である。ナポレオンとはそれほどまでに魅力ある人物なのだ。私にとってナポレオンとはフランスの高級酒のネーミングで親しみを感じているものの、実際の歴史上人物・ナポレオンについては、正直あまり知らなかった。

そのナポレオンの末裔で、ナポレオン家の当主フランス・シャルル・ナポレオン氏と神戸で開催された「栄光の大ナポレオン展」でお会いした。彼はナポレオン・ボナパルトの末弟のジェローム・ボナパルトから5代目の直系の子孫。長身でなかなかの好人物である。現在、実業家として、歴史作家として、また幅広い社会貢献で活躍されている。

パーティーの席上、せっかく日本に来たのだからフランスのワインとか、コニャックでは面白くない。神戸は灘の生一本の日本酒のメッカ。私は日本酒の最高級品「大吟醸」をワイングラスに入れてナポレオン氏に勧めた。「これはフルーティーで実においしい酒だ。日本酒は素晴らしいね」と言わせて見せた。私にとっては大成功であった。

ルーヴル美術館で圧倒されたのが「ナポレオン一世の戴冠式」だ。大きさは高さ6.3m×幅9.7m。畳にすると39畳にもなる。作者はナポレオンの首席画家であったジャック・ルイ・ダヴィッド。ナポレオンの登場から失脚するまでの時期にフランス画壇に君臨した画家。これと同じ作品がヴェルサイユ宮殿にも置かれていたが本人の複製である。

私はこの絵の前で暫く鑑賞するとともにナポレオンに思いを馳せた。彼の魅力は新しき時代を創造せんとして、前進また前進の不撓不屈の行動を貫き通した壮大な生命力にある。彼と対話するような気持ちで、その偉大なる生涯を回想しつつご挨拶申し上げた。 撮影 2009年冬

